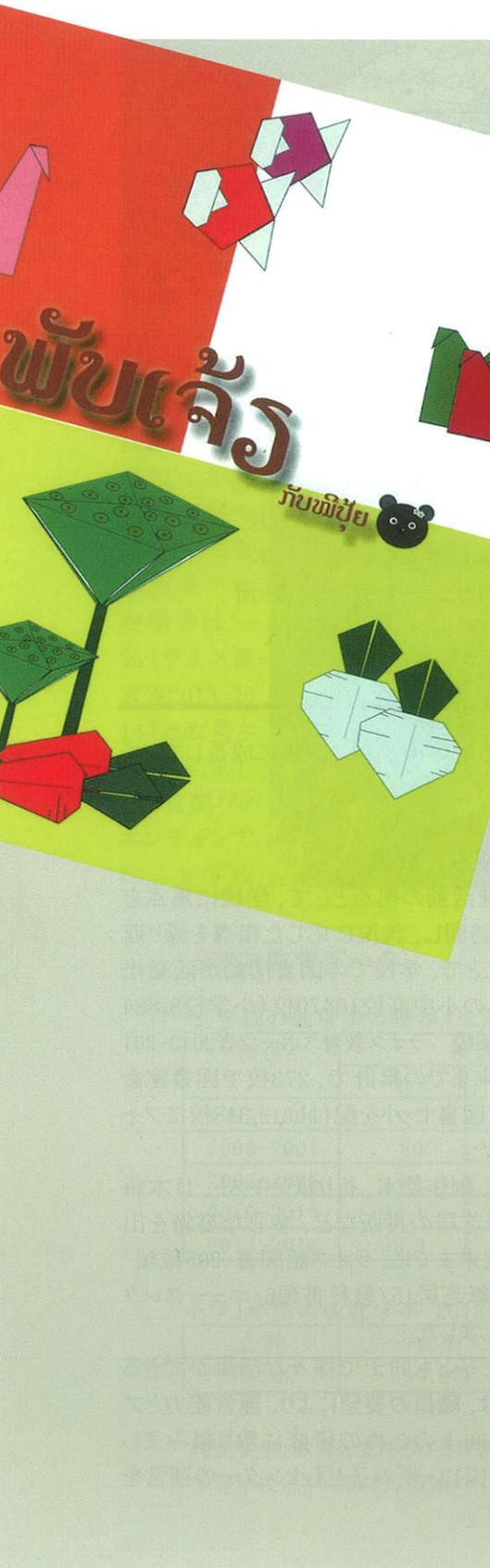


子どもは未来をつかみたい

2014年度年次報告書 ダイジェスト
2015年度年次計画

(認定) 特定非営利活動法人 **ラオスのこども**



目次

2014年度 第13期 事業報告

この1年.....p2

ラオスでのプロジェクト

I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動).....p3

II. 本をつくる(出版プロジェクト).....p4

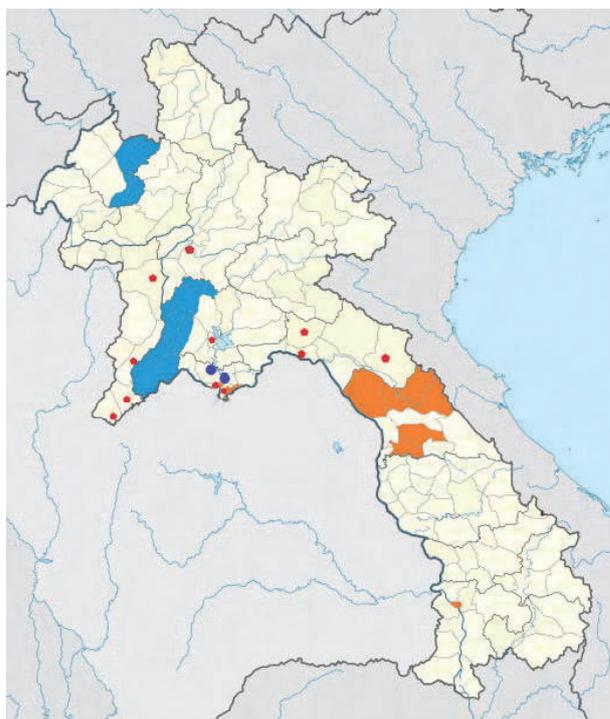
III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター).....p5

日本での活動.....p6

組織運営.....p7

2014年度 第13期 会計報告.....p8

2015年度 第14期 事業計画・予算.....p9



■ 学校図書室の地域への展開事業	16ヶ所
■ 学校図書室(HakArn)整備事業	8校
● 中等学校の図書館整備事業	2校
● 子どもセンター(セミナー参加)	11ヶ所

「ラオスの子ども」とは？

はじめ

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人とが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスの子ども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものです。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本をつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援をおこなっています。

めざすものー子どもは未来をつかみたい

「ラオスの子ども」の活動の目的は、子どもが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択する権利を全うできる社会、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。日本、ラオスをはじめ多様な人々の参加によ

て、同時代を生きる地球市民としてともに成長していくことをめざします。

これまでの取り組み、成果

当会は読書推進活動の拠点として、学校に焦点をあて、各校を巡回訪問し、状況に応じた指導を繰り返し丁寧におこなうことで、学校での図書活動が活発化しています。ラオスの小中高校10470校(小学校8,884校、中学校1,586校 ラオス教育スポーツ省2013-2014)のうち、今年度末までの累計で、273校で図書室を開設し、2,732校に図書セットを配付し、2,318校にフォローアップをしました。

出版では、民話、創作絵本、折り紙テキスト、日本語絵本の翻訳版、紙芝居の再版など、多彩な書籍を出版しました。今年度末までに、ラオス語図書 205種類 86万冊(図書174/紙芝居15/教科書類6/ニュースター10)を現地出版しました。

学校外において子ども同士で様々な活動ができる「子どもセンター」は、職員の要望により、運営能力とプログラム企画能力向上のための研修に取り組みました。これまでに、全国12ヶ所の子どもセンターの運営を支援してきています。

この1年

ラオスの状況

ラオスの経済成長は続いています。相変わらず自動車は増え続け、二重駐車は当たり前。ヴィエンチャンでは、歩道に乗り入れ駐車している車を避けるため、人は以前のようにノンビリと歩くことができません。街の中心にガラス張りのアトリウムを持つショッピングセンターがオープンし賑わっています。20階建ての高層住宅や中層オフィスビルがいくつも建設途中で、数年後にはまた街並みが変わることでしょう。インターネットでラオス語入力ができるようになったこともあり、facebookがラオスでも発信ツールとして定着しました。しかし、ブックフェアで展示されている図書は、種類は増えてもバラエティはなく、何となく手に取りたい気持ちになりません。

国連が推進した15年間にわたる「ミレニアム開発目標」MDGsの成果もあり、ラオスでの6歳～10歳児の小学校への就

学率は98%に達し、卒業年次までの在学率は75% (ラオス教育省2013-2014)と改善されてきました。首都ヴィエンチャンでは、小学校



卒業者の98%が中学校へ進級するようになっていす。そこで感じるのは数字で表すことのできない「質」のことです。小学校で教える先生方の意欲は、高まっているのか。急激に生徒数が増えている中等学校(中学4年高校3年の学校)の教育はどうなっているのか。簡単な計算ができない若者、ゴミが散らかったままの教室に行き当たると(かなりの確率)、数値では表せない教育の「質」はまだまだ改善すべきことがあると感じます。

活動の課題、重点的取り組み

第6次中期計画では、NGOの役割の再確認とラオス事務所の自立のための組織強化を基本としており、この一年、現地事務所の組織活動の就業規則などの文書化が進みました。またラオス現地での資金調達活動が積極的になされ、成果を上げることができました。

プロジェクトでは、これまでの学校を拠点とする読書推進の輪を広げ、「地域」を巻き込んだものに拡げる新しい試みは、現場での反応が良く、計画より早く村の読書拠点を設置する場所も出てくるなど、順調に進んでいます。また、教育環境が十分でない中等学校での図書館建設事業も動き始めています。

この数年、優先課題としているラオスでの読書推進を担う人材の育成は、時間をかけつつ進んでいます。

さらに、近年常に大きな課題である財政改善については、より多くの皆さまにご支援をいただけるよう、新しいクラウドファンディングの試みや、寄付のお願いを増やすなどにより、まだ充分ではありませんが、一定の成果がありました。しかし、最終的には今期決算も赤字となり、来期への課題となっています。

ラオス教育データ

小学校の就学率の推移(全国平均)

年度	純就学率(%)		
	計	女子	男子
1995-1996		65	72
2000-2001	80		
2005-2006	84		
2010-2011	94.1	93.3	94.9
2013-2014	98.0	97.6	98.4

小学1年生の純就学率 2013-2014

合計	女子	男子
96.3%	95.8%	96.8%

小学1年生のドロップアウト率 2013-2014

全国平均	9.9%
最低: ボンサリー県	17.5%

残存率(入学した児童が卒業する割合) 2013-2014

全国平均	75.3%
最低: サラワン県・アタプー県	60.8%

中等学校の進学率と純就学率 2013-2014

小学校卒業者の中学進学率	89.9%
中等学校1-4年の純就学率	74.4%
中等学校5-7年の純就学率	41.3%

純就学率: 教育を受けるべき年齢に、実際に教育を受けている人の割合

中等学校は7年間あり、日本の中学、高校レベルにあたる。

(出典) 教育スポーツ省統計情報センター (2010年度以降は、Annual School Census)

1 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスでは、教科書が1人1冊揃わない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると、日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きを忘れるという状況が続いてきました。また、多民族、多言語社会でありながら、学校の授業は公用語のラオ語のみということが読み書きの習得のハードルとなってきました。

当会では、ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書を配付、273校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図っています。

また、子どもと本をつなぐ役割を担うのが先生です。しかし、読書経験を持たず、本に関心がない、給与が安く、農業などの兼業で教育へのモチベーションが高くない、といった例は少なくありません。そのため当会は、先生が本に関心を高めるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

地域に裾野を広げる学校図書室

地域住民を図書活動のサポーターとして巻き込み、学校の図書活動の担い手の裾野を地域に広げる事業で、ルアンナムター県・ヴィエンチャン県の6郡において16ヶ所を対象に実施しています。

9月～11月、対象16ヶ所の小中学校において、図書室を開設。開設時には、2日間に渡り、担当教員に図書室運営の基礎をトレーニングしました。

地域文庫(村図書館)の開設に関心を示した地域は多く、その中でも積極的で、受け入れ体制が整った3ヶ所で、2015年5月に地域文庫を開設しました。



教育指導官が熱心な地域では、学校も地域住民も読書推進活動への関心が高く、順調に事業がすすんでいます。活動状況は地域によってばらつきがあります。教育指導官と連携し、地道なフォローアップを繰り返して、活動の安定化を図る必要があります。

(学校図書室の地域への展開事業/JICA国際協力機構草の根技術協力事業)

3県8小中学校にあらたに図書室をオープン

空き教室を利用した学校図書室開設を、今期は3県の小学校3校と中学校5校でおこない、同時に教員向けの研修を実施しました。また、過去3年以内に開設した学校図書室32校に図書を補充しました。

図書室の開設にあたっては、ラオスでの資金調達率が増加してきており、今期は3ヶ所が現地での入金によ

り開設できました。

学校からは多くの図書室開設支援の要請が寄せられており、読書推進への関心の高さがうかがえます。中には、既に図書室は整備されているが、当会が開設する学校図書室のネットワーク(HakArn=ハックアーン)のグループに加わりたいという学校も出てきています。



中等学校で図書館を建設

近年急速に生徒数が増加している中等学校(中学高校にあたる)は全般的に環境整備が追いついていません。そこで、ヴィエンチャン都内の大規模の中等学校2ヶ所で、図書館を建設するとともに、教員や生徒に読書推進研修を実施する計画です。期末までに、建設地の選定、業者への見積発注が終了しました。

(中等学校の図書館整備事業/外務省 日本NGO連携無償資金協力事業)

事務所併設子ども図書館の活動状況

事務所併設子ども図書館は月曜から土曜まで開館し、近隣の中学校2校、小学校4校の子ども達を中心に、1日平均52人が来館しました。1日平均9冊の図書を貸出し、1年間の新規会員数は51人でした。

ボランティア・インターンの活動で、恒例のリコーダー&ダンス教室や、理科実験アクティビティなどを積極的に実施した結果、より興味を持って来館する子ども達が増加したと思われます。

II 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店がほとんど見当たらず、本を目にしません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれた作品が不可欠であることから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人、タイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘、育成し、これまで205点864, 455部の書籍や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。子ども向けの書籍は、援助機関による無償配布が前提となっていることもあり、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともし」ような、質の高い本作りを目指しています。

出版、紙芝居、約2万5千部を出版

今期は、図書7作品、紙芝居1作品、計24,600部（初版4作品、再版4作品）を出版しました。

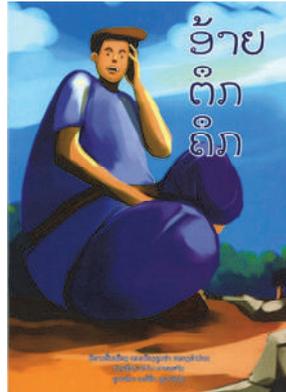


折り紙ハンドブック

3,600部 初版

作)ミーパイ

子ども達に折り紙を教えたい、という先生達の声をきき、ラオススタッフが企画。作者は教員養成校教員。折り紙を付録にした為、すぐに使えると大好評。《支援：学習院女子大学、キヤノン株式会社》



トウッククック兄さん

3,500部 初版

作)カムタイ パイパチャン

絵)アピシ スパポンタイ

カムワン県クーンカム郡に伝わる民話で、その土地の豊かさの起源を語り継いだもの。2014年「ラオス諸民族の若者のための出版研修」で作られた作品。

《支援：学習院女子大学》



絵本はだしのゲン ラオス語版

3,000部 初版

作・絵)中沢啓治

訳)チャンタソンインタヴォン

中沢啓治さんが広島での被爆体験を基に描いた漫画『はだしのゲン』の絵本版。制作に時間がかかったが、中高生を中心によく読まれている。

《支援：自治労広島県本部》



ビニール袋の旅

3,500部 初版

文絵)アリナー アーパイワン

ビニール袋が旅をしながら、ゴミ問題を中心に環境について考える話。2013年にラオスでおこなわれた絵本コンテストの入賞作。作者は当時高校生。

《支援：株式会社すかいらーく/自己資金》



紙芝居森のおばけと汚い水

2,000部 第2版 作・絵)ブンルート シヴィサイ

2004年に出版した保健衛生紙芝居シリーズの飲み水をテーマにした作品を再版。ラオスの山間部では衛生的な水にアクセス出来ない地域がまだ少なくない。作品を通して子ども達は自分の身を守ることを学べる。《支援：公益信託アドラ国際援助基金》



なんのどうぶつ1～文字絵本第1巻～ / なんのどうぶつ2～文字絵本第2巻～

各3,000部 第5版 詩)ドゥアンドゥアン ブンヤボン 絵)ブンルート他、7名合作

1997年に出版して以降、再版を重ねる人気作。ラオス語を楽しく学ぶための絵本。日本の専門家の指導により、ラオス人幼稚園教師などが、切り紙でカラフルな動物の絵を作り、ラオス語の簡単な語彙で詠んだ詩を合わせたもの。《支援：株式会社すかいらーく》



カンパーと魔法の銅鑼

3,000部 第2版 文)S.テップヌハック 絵)ヴォンサヴァン ダムロンスック

子ども達に人気の民話の絵本。孤児カンパーが不思議な力でお姫様と結婚し、叩けば願いの叶う銅鑼を手に入れるお話。2002年に当会が出版した人気作品の再版。

《支援：株式会社すかいらーく》

III 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはありますが、十分な指導ができる先生がいない、用具がないなどで、子どもたちの情操面を伸ばしたり、チームでの活動をする機会がありません。

1994年に、当会などの協力によって音楽、舞踊、図画工作などの表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、全都県に設置されましたが、近年は、講師の雇用、教材費、行事開催などの資金確保が難しく、魅力的なプログラムが組めず、不活発なセンターも見られるようになってきました。当会においても、日本での助成金などでは、緊急性が低いと判断されるなど理解を得ることが難しく、ポイントを絞った支援内容にせざるを得ません。

子どものための活動能力育成セミナー

2015年1月14日～19日、子どもセミナー11ヶ所の館長・職員など計23人が首都ヴィエンチャンに集い、研修を実施しました。研修内容は、昨年の事業評価での現場からの要請に基づき、新しいアクティビティを実施するテクニックの習得やマネジメント能力強化を目的としたものです。

日本の保育園や児童館で豊富な経験を持つ後藤さち子さん・西村恵子さんを派遣し、身近な素材で棒人形を作り、オリジナルの劇を作るというプログラムを実施しました。参加者からは「自然の物を使うのが良い」「子どもと活動するのが楽しみ」といった感想が寄せられました。

また、活動に欠かせない資金調達をセンター自ら出来るように当会スタッフが講師を務め、実践的な申請書作りに取り組みました。研修後、実際に財団へ助成金を申請したセンターもできました。



IV もっと学ぶことが出来るように（奨学金プロジェクト）

タイのThe Siam Cement Public Co. Ltd. から受託されている事業で、今期で3年目になります。高校生（中等学校5年生～7年生）が対象で、経済的に厳しい家庭状況で、学習意欲の高い生徒に、1年間の奨学金を支給するプロジェクトです。

高校生対象のための奨学金事業（受託事業）

実施にあたっては、教育局と協力し、ヴィエンチャン都内及びカムアン県にある全ての公立中等学校に願書を配布しました。募集人数の2倍を超える応募があり、書類選考の後、審査員が学校と家庭を訪問して面接をおこない、ヴィエンチャン都150人、カムアン県50名、計200名の奨学生を決定しました。

1年間の奨学金は2回に分けて給付。プロジェクト開始時は、最終学年の1年間のみの受給でしたが、奨学生達の多くが高い成績を収めており、事業実施に対する評価が高まり、継続応募が可能となりました。中等学校の校長によると、奨学金を受給した生徒のモチベーションは高まり、大学への進学する生徒も増えているとのことです。



日本での活動

当会は、日本では東京に事務所を設け、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校に、開発教育の授業を出前

当会スタッフが学校に出向き、国際理解教育(開発教育)の参加型授業を実施しています。今期は中学1校、高校2校、計3校で、合計200名を対象に、ラオスの紹介や日本の絵本にラオス語訳を貼る「ラオス語絵本」プロジェクトを実施しました。



参加型プログラム

●スタディツアー

初の試みとなる参加者と一緒を作るスタディツアーを企画しましたが、現地集合というハードルが高かったゆえか、催行人数に達せず中止となりました。また、旅行会社との共同企画も計画しましたが、残念ながら催行人数に達せず、実行出来ませんでした。

●ラオス語絵本プロジェクト

ラオスの子ども達に多様な絵本を提供するために、日本語の絵本にラオス語訳を貼り付けてラオスへ送るプロジェクトを実施しています。今期は、プロジェクトへの申し込みが27件、合計493冊(昨年比3%増)をラオスへ送っていただくことができました。

また、インターンとボランティアの協力のもと、翻訳シートの改訂作業や、過去の実績集計、案内チラシの改訂をすすめることができました。



●書き損じハガキの収集

書き損じハガキを集め、プロジェクト運営資金に活用しています。書き損じハガキ3枚が、ラオスの絵本1冊分に相当します。今期は、76件、289,282円相当のご寄付をいただきました。

活動ミーティング・勉強会

●活動ミーティング

会員、ボランティアが集まる活動ミーティングは、スタッフの出張報告や学生ボランティアの活動報告、イベント企画や反省など、計5回開催。参加者は延べ64名で前期より増加しました。

●勉強会

ラオス全体に焦点をあてた広範囲でのテーマを設定し、ラオスに興味のある新しい参加者を増やすように意識しました。その結果、各回とも30名を超える参加がありました。

第21回 山のいたずらっこたちのあそびとしごとと学校
～ラオス北部のアカ族の暮らしに学ぶ～

講師:秋元波さん

第22回 ラオスにおける国際協力～JICAの取り組み～

講師:戸谷幸一さん

イベント開催

●ラオスの織物展示販売

ラオスの様々な民族の織物、刺繍を使った小物や洋服の展示販売を、各地のギャラリーなどの協力を得て開催しています。今期は、3回の織物展を開催し、委託販売も積極的に実施しました。



●ラオスの正月「ピーマイパーティ」

ラオスは4月にお正月がやってきます。当会では毎年、東京・大田区内の施設で、活動を紹介するとともに、ラオス料理を味わい、留学生による民族舞踊を楽しんでいただくパーティを開催し、好評を得ています。今期は116人が共に新年を祝いました。

組織の運営

1. 全体運営

■理事会

理事10名、監事2名により運営が担われ、年4回理事会を開催しました。参加はのべ31名で、毎回、財政状況、資金調達、プロジェクト運営についての報告、討議の他、ラオス事務所強化の方策などが話し合われました。

■運営

ラオスでの著しい経済成長が、会の運営にこれまで以上に影響を与えています。物価高騰と人件費の高騰が年間計画を上回るスピードで進み、経常経費が増加し、経営に影響をあたえています。厳しい環境にはありますが、財務体質改善の一環として、年度内に未払金の精算をすすめました。

東京事務所は各種規程類の整備をすすめたうえでJANICのアカウントビリティセルフチェックをおこない、2012マーク取得実施団体として登録されました。

法律の変更に伴い、東京国税局による認定から、所轄を東京都に変える手続きが11月に終了しました。認定は5年間で有効です。

会員数(期末時)は、活動会員72名、サポーター153名で、昨年度とほぼ同じ実績にとどまりました。

■資金調達

今年度の資金調達は、予算比では達成されていない項目がありますが、昨年度に比べおおむね収入を増やすことができました。とりわけ、少数民族の本の出版募金、人材育成のための募金など、キャンペーンを工夫することで、多くの方にご支援をいただくことができました。初の試みであったクラウドファンディングでも、新規の方のご支援を含め42万円ほどの資金が調達出来ました。(入金は次期になるため決算には反映していません)

■広報

ホームページ記事、スタッフブログ、Facebookの更新により、発信頻度をあげ、メーリングリストからも活動情報を随時発信することができました。一方で、メールマガジンの整備とツイッターの開設はできませんでした。

通信は、年3回計5000部、年次報告書は1500部発行しました。

2. 東京事務所

■体制

以下のメンバーにより運営されました。

常勤非専従事務局長	1名
常勤専従スタッフ	3名

会計ボランティアスタッフの継続した協力により事務局は支えられています。今期活動したインターンは合計8名。それぞれ興味がある分野や強みを活かし業務を担当し、総合的に事務局の業務体制を強化することにつながりました。

■総会

9月20日、2014年度通常総会を開催し、活動会員44名(書面表決、委任状を含む)が参加し、第12期事業報告、会計報告、定款変更が承認されました。

3. ラオス事務所

■体制

常勤スタッフ7~12名により運営されました。

事務所所長	1名
常勤専従スタッフ	5~7名
日本人駐在員	1名
アドバイザー	1名

この1年で5名が退職、3名が入職するという変動がありました。中でも、会計補助をしていたスタッフが7月に退職したことにより、会計業務が滞る傾向が続きましたが、12月に1名補充し、徐々に改善が見られています。また、8年間勤務し、中心的な立場のスタッフが4月に退職となり、新人スタッフの育成と業務の引き継ぎを1月~4月におこないました。

若手スタッフ育成のために、内部でベテランスタッフによる研修を6回に渡り実施したほか、外部の研修にも1名が参加しました。

■資金調達

高校生への奨学金事業は3年目となり徐々に規模が拡大し600万円を超える金額での受託となりました。ラオス企業からの図書室開設支援についても継続支援を得ることができました。スイスファンドによる助成事業も受託し、少数民族の若手作家育成研修を実施しました。

当会のノウハウを国際NGOに働きかけた結果、図書室開設と教員研修に関する事業を次年度に受託出来る見込みです。

図書販売については、委託販売先を10ヶ所程度に増やし、販売量が増加しました。

■ボランティア・インターン・訪問受入

ラオス大学の学生ボランティアを1名受け入れました。恒例となっている日本の大学生のボランティア、インターンも継続して受け入れ、併設図書館で活動しました。また、事務所や併設図書館への日本人来訪者が増加しています

2014年度 第13期 会計報告 (2014年7月1日～2015年6月30日)

活動計算書

科目	金額
I 経常収益	
1.受取会費	1,075,000
2.受取寄付金	4,310,253
3.受取助成金等	27,601,894
4.事業収益	5,607,686
5.その他収益	563,586
経常収益計	39,158,419
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	12,311,464
(2)その他経費	22,826,461
事業費計	35,137,925
2.管理費	
(1)人件費	3,916,657
(2)その他経費	2,589,570
管理費計	6,506,227
経常費用計	41,644,152
税引前当期正味財産増減額	-2,485,733
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	-2,555,733
前期繰越正味財産額	8,005,591
次期繰越正味財産額	5,449,858

事業別損益の状況

科目	経常収益計	経常費用計
出版事業	3,885,905	4,954,713
図書室地域展開事業	12,892,551	10,776,155
図書館建設事業	796,677	796,677
学校図書室整備事業	4,131,660	6,318,256
子どもセンター事業	1,374,264	1,612,499
奨学金事業	6,965,357	6,965,357
特別実施事業	1,384,924	79,010
交流事業	599,449	905,751
収益事業	4,693,161	2,877,361
図書商品棚卸	0	-147,854
事業部門計	36,723,948	35,137,925
東京管理費	1,942,630	4,757,777
ラオス管理費	491,841	1,748,450
管理部門計	2,434,471	6,506,227
合計	39,158,419	41,644,152

資金調達は、予算比では若干達成されていない項目がありますが、布織物商品の委託先の開拓も積極的におこなわれ、収入合計は昨年度比124%と増加しました。ラオスで活動している国際NGOに接触した結果、読書推進活動を受託することができ、ラオス事務所での資金調達活動において、かなりの成果となりました。今後同様の受託が期待できます。更に、ラオス事務所における図書販売も販路拡大が図られるなど、ラオス事務所の資金調達に対する意識が高くなりました。しかし、ラオス経済の著しい変化がこれまでに以上に影響を与えています。インフレーションにともなう物価高騰、人件費高騰が急激に進み、経常経費が増加し、経営に影響を与えています。

【脇田監事からのコメント抜粋】

帳簿上の内容、手続き的には問題がないと考えている。もう少し赤字が大きくなるのではないかと憂慮していた。今後の財政状態については、人件費についてある程度の見通しがあるということで大丈夫だとは思いますが油断しないいただきたい。今後は、寄付金の増加と、ラオス事務所の会計管理体制がポイントとなるだろう。

【矢崎監事からのコメント抜粋】

今期は赤字で終了したが、前期の赤字額と比べるとその額は縮小された。ただし、その結果、正味財産の額は、在庫の金額を除けばマイナスとなり、実質債務超過状態になっている。期末より、組織体制の刷新を行い、次年度の収益改善策は策定されていて、補助金などの入金が確実であることを考慮すれば、これ以上の悪化は免れると思う。しかし、気を抜くことなく、前向きに損益管理と事業獅子に取り組んでいただきたい。

当期は更にラオスでの資金調達が増え、目指すべきラオスの自立化が進んでいることはすばらしい。一方で、会計管理における体制に弱さがあると聞いている。1千万円近い事業規模になり、取引も増えてきているので、迅速に会計処理をおこない、東京にも逐次報告する体制を速やかにおこなって欲しい。予実管理が遅れることで効率的な事業実施の機会を逃すことも十分に考えられる。早急に対策して欲しい。

貸借対照表

科目	金額
I 資産の部	
1.流動資産	21,813,140
資産合計	21,813,140
II 負債の部	
1.流動負債	16,363,282
負債合計	16,363,282
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	8,005,591
当期正味財産増減額	-2,555,733
正味財産合計	5,449,858
負債及び正味財産合計	21,813,140

監査報告書	
特定非営利活動法人 ラオスのこども 代表 チョウタン インタヴォン 殿	
2015年9月5日	
特定非営利活動法人 ラオスのこども	
監事 脇田康司	
監事 矢崎孝彦	
私たちは、特定非営利活動法人 ラオスのこども、第13期2014年7月1日から2015年6月30日までの会計年度について、事業報告と会計報告の監査を行った結果、適正であることを認めます。	
1. 監査方法の概要	
(1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続をもちいて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。	
(2) 業務監査について、理事会に出席し、理事および事務局からの業務報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続を用いて、業務の妥当性を検討した。	
2. 監査意見	
(1) 活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支および、財産の状況を正しく示していると認める。	
(2) 事業報告書の内容は、実態で有ると認める。	
(3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失はないと認める。	
以上	

□背景と方向性

経済発展が著しいラオスでは、いかにして物質的に豊かになれるのかということに社会の関心が向いています。以前なら外国のTVで見ていたきらびやかな消費物資が町にならび、一部の層には手が届くものとなっています。

教育においても、就学率などの数値は改善されつつあります。都市部では教育への投資は当たり前となり、塾通いが普通となっています。しかし、私たちが感じるのは、まだなかなか、ものごとの「質」までには関心が届いていないことです。

当会の理念である、ラオスの子どもたちが読書に親しむことで、人生をより豊かに選び、過ごすことができるような社会を実現するためには、いかに子ども達が多様で質の有る読書に接せられるかがカギとなります。この認識を基本として、第14期の活動は「多様性」の拡大と「質」の向上、さらにこれまで意識してきた「読書の楽しみを伝える」担い手、「活動を支える組織」の担い手の育成が引き続きの課題となります。

一方、それらの活動を支える組織経営の安定感は、まだ充分ではありません。前期で財政改善のめどは少し立ってきましたが、さらなる改善が存在にかかわる急務であると考え、引き続き最優先で取り組みます。

現在進行中の第6次中期計画では、子どもたちの教育環境を改善する活動が自立していくことを、大きなテーマとしています。さらに基本方針で、(1) ラオスの急激な社会変化の中でNGOの役割を再確認する (2) ラオス事務所の自立を促進する、ことをあげ、4つの重点項目として ①組織活動の質を高める ②健全な財務体質を構築する ③東京・ラオスともに活動の担い手の主体性・専門性を高める ④プロジェクト評価とプロジェクトの方向性の再構築を図る と設定しています。今年度の事業計画は、中期計画の3年目の活動として作成しました。これまでの30年以上にわたる活動の中で、会が蓄積してきた強みを生かし、世界、地球という枠組で、読書推進活動の意味をより積極的に伝える努力を、引き継ぎおこなっていきます。また今年度は次の第7次中期計画を策定する準備に入ります。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の11名です。2015年9月19日に実施した通常総会にて承認されました。その後おこなわれた理事会にて、チャンタソン インタヴォンが代表に選任されました。

理事	・後藤 さち子	再任	・猿田 由貴江	再任
	・塩谷 光	再任	・新藤 雅章	再任
	・田島 伸二	再任	・チャンタソン インタヴォン	再任
	・野口 朝夫	再任	・広瀬 未奈	再任
	・森 透	再任		
監事	・矢崎 芽生	再任	・脇田 康司	再任

ラオスでのプロジェクト

1. 本に会い、親しむ (読書推進活動)

● 学校図書室の地域への展開事業

引き続き、ルアンナムター県、ヴィエンチャン県6郡において、小中学校16校を対象とし、保護者や地域住民を巻き込むことで、学校の図書活動の担い手の裾野を地域に広げます。学校図書室の活動の安定化と共に、関心を示した地域から、地域文庫(村図書館)の開設を順次おこないます。また、4年間にわたる事業の折り返しにあたることから、中間評価を実施する計画です。(JICA草の根技術協力事業)

● 学校図書室の整備

引き続き、小中学校の空き教室を利用して、本棚や本を提供し、教員研修をおこないます。日本からの支援により6ヶ所、ラオスで活動する国際NGOからの依頼により8ヶ所で新規開設を予定しています。また、地方教育局と共同し「ブックフェスティバル」を、ヴィエンチャン県とルアンナムター県の4郡で開催。



地域全体で読書推進活動を盛り上げ、学校図書室の活動を定着させる為の取り組みをおこないます。読書推進センター活動のバックアップや、各学校の図書活動のフォローアップを引き続き実施します。

● 中等学校の図書館整備事業

ヴィエンチャン都内の2ヶ所の中等学校での図書館建設は、8月までに業者の選定をおこない、9月に建設開始。11月には建物が完成予定で、各校で教員

と生徒に対し、図書館の管理運営や読書推進活動に関する研修をおこなう計画です。(外務省日本NGO連携無償資金協力)

●ラオス事務所併設図書館の活動

子どもにとって魅力的な活動、主体的に参加できるアクティビティを引き続きおこないます。スタッフによる読みきかせ、読書に関連したゲーム、映画の上映、折り紙や工作など、読書だけではなく表現する場を作り、そのモチベーションを引き出します。

II. 本をつくる (出版プロジェクト)

今日のラオスの子ども達にとって、どのような本の提供が意味があるのかを常に問い直しつつ、質の高い多様な本を計画的に出版します。評価が高い図書の再版や、海外作品の翻訳出版をおこないます。ラオス事務所における出版の各プロセスでの能力を高め質を向上させます。

著作権や出版・編集作業のアドバイスをおこなう為、日本から専門家を派遣して研修をおこないます。また、前期に出版した『折り紙ハンドブック』を教材とし、教員を対象としたワークショップを実施します。これまで当会が出版してきた図書について、専門家を交えた評価活動をおこないます。

III. 集い、表現し、学び合う (子どもセンター)

当会スタッフが各センターを訪問し、可能な限り、各センターの活動状況や課題の把握に努めます。その結果をもとに、子どもセンターの活動の活性化と人材育成のために、専門家を派遣したセミナーの実

施計画を策定します。また、ラオス国内の企業からの支援も得られるように働きかけをおこないます。

IV. 奨学金事業 (受託事業)

高校生対象の奨学金事業を継続して、受託することが決定。奨学金受給者は、ヴィエンチャン都150名、カムアン県80名の合計230名に拡大して実施する予定です。

日本での活動

引き続き、「開発教育・国際理解」「ラオス語絵本プロジェクト」「書き損じハガキ収集」の活動をおこない、ラオスの子どもたちの状況や会の活動への理解を深めます。また定例の活動ミーティング・勉強会では、活動を支える人々、関心を持つ人々とのネットワークを強めていきます。さらに、物品販売など、自己資金獲得の為の活動を積極的におこないます。

組織の運営

運動体として、活動理念などを分かりやすく発信するよう心がけ、迅速な情報提供により、会員、理解者、支援者を増やし、資金調達力を高めることで経営の安定化を達成します。理事会が経営状態を常に把握し、経営判断を迅速に出来るよう、事務処理の効率化を図ります。

今日的なNGOの役割認識を深め、アカウントビリティを高めることで組織力を強化します。計画的な研修などにより、スタッフの能力強化、組織の運営能力の向上を図ります。

2015年度 第14期 予算 (2015年7月1日～2016年6月30日)

活動計算書

科目	金額
I 経常収益	
1.受取会費	1,330,000
2.受取寄付金	5,395,000
3.受取助成金等	40,637,126
4.事業収益	4,150,000
5.その他収益	970,000
経常収益計	52,482,126
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	13,104,199
(2)その他経費	33,142,128
事業費計	46,246,327
2.管理費	
(1)人件費	2,472,295
(2)その他経費	2,900,000
管理費計	5,372,295
経常費用計	51,618,622

自己資金調達能力の向上により、財政基盤を強化します。わかりやすい提案書・企画書で、より多くの組織にはたらきかけ、新規支援者を開拓します。支援者のニーズにあった寄付メニュー構成をこころがけます。

また、ラオス事務所では、民間企業、外国政府、国際機関に対し、資金調達を働きかけると共に、プロジェクト受託のための見積もり契約内容の吟味をおこないます。図書の委託販売先をさらに開拓し、販売方法の改善を図ります。





特定非営利活動法人ラオスのこども の目的

子どもが自らの力を伸ばす権利、人生を主体的に選択する権利を全うできるよう、教育の普及に協力することで、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。そのため、今日子どもが教育を受ける機会を十分得ていない地域のひとつ、ラオスにおいて、本の出版、読書の習慣の普及、子どもが集い遊び学べる場の支援など、子ども自らが学ぶ力を伸ばす環境を生み出す活動を行います。

活動を通じて得た知識、情報は地域と地球社会に発信していきます。

活動にあたっては、子どもの参加と、日本およびラオスをはじめとした人々の参加を促し、誰もが対等に力を発揮し合う関係を作り出すことで、それぞれが成長の機会を得ることをめざします。(定款第3条目的より)

(認定) 特定非営利活動法人 **ラオスのこども**

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail deknoylao@yahoo.co.jp
<http://deknoylao.org>

